

平成23年
8月20日発行

『芝地区地域情報誌』は、地域の皆さんとともに創る情報誌です。芝地区の「いい話」を紹介したり、様々な行事や活動の情報を交換したり、地域の皆さんと一緒に地域のことを考えていく場として、地域情報誌を発行しています。

第20号の表紙は
芝大門
エリアの話題です

「桜川」は門前を北(写真右)から南(写真左)へ流れていました

江戸時代、
「大門」の前に
人々の生活を守る
水路が流れていた増上寺の門前に「桜川」
が流れ、橋が架かっている
のがわかります
(『東都名所 芝神明増上
寺全図』歌川広重)

芝地区を代表する増上寺。江戸時代、その総門である「大門」の前には、排水溝の役割を担った「桜川」という水路が流れていました。

この水路は、付近の町屋から排出される「下水」の落とし口として使われ、南にある将監橋に向かい、「金杉川」(古川)に流入しました。当時は下水といっても、し尿は別でし、家庭から出る排水もそれほど汚れていませんでしたから、直接川に流しても問題はなかったのでしょう。

「七軒町」「浜松町」「神明町」「神明門前」の4町(現在の芝大門1丁目)では、「下水組合」を設立してこの下水を管理していました。自分たちのことは自分たち

でやるという精神が生きていました。

寛政5年(1793)4月に、幕府による工事で大門通りに土手が築かれ、下水も拡幅されると、それまでは普請奉行(土木工事を担当していた役所)が行っていた下水の修理や浚い(掃除)も、この組合で行うよう申し渡されました。以来、4町の下水組合により大切に保全・管理されたこの下水は、当時の人々の暮らしを支えた重要な施設だったことでしょう。

都市化が進み、その機能がなくなった桜川は暗渠(地下水路)となり、現在のまちの姿になっています。今でも将監橋の下では、暗渠となった桜川が古川

に注ぎ込んでいるそうです。江戸の町に思いをはせ、芝大門の散策をしてみませんか。知らず知らずのうちに「桜川」の上を歩いているかもしれませんね。

●参考文献：東京都下水道局発行『ニュース東京の下水道(No.221)』ミツカン水の文化センター発行『水の文化(18号)』

芝大神宮で、
江戸町人の
暮らしをしのぶ…

都営浅草線・大江戸線大門駅から、芝神明商店街に入るとすぐ、左手に大きな鳥居が見えてきます。6年前に創建千年を迎えた由緒ある神社、芝大神宮です。かつては飯倉山(現在の芝公園あたり)に鎮座していたことから飯倉神明と称されましたが、徳川家の菩提寺、増上寺が現在地に移されたのに伴い、芝大門1丁目に遷座されたといわれています。

江戸時代、この芝大神宮が多くの参拝者でにぎわったその理由は…? ご存じの方は歴史に造詣の深い方と言えるでしょう。ヒントは鳥居、伊勢神宮を想起させる、すがすがしくも威厳あふれる神明鳥居にあります。芝大神宮の主祭神は天照大御神、豊受大神。伊勢神宮の内宮・外宮を祀ることから「関東のお伊勢さま」として親しまれてきたのです。旅行などままならない当時、「一生に一度はお伊勢参りに」と願う東北など関東以北の庶民の間で、人気を博しました。

また、芝大神宮といえば、「め組の喧嘩」の舞台としても知られています。文化2年(1805)2月、このあたり一帯をとり仕切っていた火消し「め組」の鷹と、江戸相撲の力士たちの境内での乱闘事件。講談や歌舞伎「神明恵和合取組」の題材



今年の「だたら祭り」は、静かに祭るいわゆる「かげ祭り」ですが、一年おきに行われる本祭時は、約千基もの神輿が渡御し、何千人もの担ぎ手の熱気にあふれる参道のにぎわいは必見(写真：芝大神宮提供)

となったこの喧嘩、「火事と喧嘩は江戸の華」とはいうものの死傷者を出す騒ぎだったようです。喧嘩の当事者、鳶や力士とともにお裁きが下ったのは、なんと「め組」の半鐘。半鐘が鳴り出したのがこの大喧嘩の発端とし、この半鐘に遠島を申しつけるという粋なはからいに、江戸庶民は喝采を送ったとか。ちなみに遠島にされていた半鐘は、明治になってから芝神明に戻され、大祭期間中には展示され、往時の勧進相撲のにぎわい、町火消しのいなせをしのぶよすがとなっています。

現代でも人気のランキング本ですが、江戸時代もさまざまなものがランク付けされ、ちょうど相撲番付のように印刷したものが流行しました。そのひとつ「江都自慢」という番付では、練馬大根や深大寺そば、谷中生姜とともに、「九月神明生姜」がランクイン。芝大神宮で、毎年9月に11日間に及んで行われる例大祭(日本一長く続く祭りとして、俗に「だらだら祭り」と称されます)の期間中、境内には盛んに生姜の市が立ち、それにぎわいぶりは歌川広重の錦絵にも描かれるほどでしたが、それが「九月神明生姜」がランク入りしたゆえんです。冬に備えて体を温める生姜を食べば風邪をひかないという、いにしえびとの智慧がしのべられます。

(文 ■ 金田 明美 / 写真 ■ 町田 明夫)



この4月より名誉宮司の跡を継いだ勝田博之現宮司に芝大神宮の由緒と名物を伺いました。テンポよく語る宮司のさわやかな話ぶりは江戸っ子そのもの

芝大神宮の力石。この石は、重さ50貫(約188kg)あり、明治時代に芝大神宮で力持ちの興行が行われた際、力持ち力士「金杉の藤吉」が片手で持ち上げたといわれています

info
芝大神宮
芝大門1-12-7
TEL 03-3431-4802心
芝地区
の風景芝大門でたった1軒の手作り豆腐屋さん
〜紀伊国屋とうふ店〜

ビルの谷間に1軒の豆腐屋。今では芝大門で唯一の豆腐屋となった、紀伊国屋とうふ店です。創業は明治中期、現在の店主西岡善一郎さんが4代目となります。初代が和歌山県出身だったことから、この屋号になったそうです。

豆腐屋の朝は早いといいますが、西岡さんの一日も午前3時に始まります。豆腐作りにとりかかり、油揚げ・生揚げ(厚揚げ)・がんもどきを揚げ、午前10時にすべての作業が終わります。西岡さんの作った豆腐は、大豆の味をしっかりと感じるができます。これが代々受け継がれた味なのでしょう。

お客さんが来ると、店主が注文を聞いて水槽から豆腐を取り出す——その昔はよく見られた光景ですが、今ではそんな一コマがほのほのとした気持ちにさせてくれます。

「こだわりは特にな」と静かに話す西岡さんですが、豆腐屋が少なくなっていく中で、今も昔ながらの手作り豆腐を守り続けていることは、すてきなこだわりではないでしょうか。

info
紀伊国屋とうふ店
芝大門1-2-4
TEL 03-3431-6061

日本赤十字社本社を訪ねて

芝大門1丁目にある日本赤十字社の本社前を通るたびに、なぜここに日本赤十字社があるのか疑問に思っていました。今回、この日本赤十字社の所在地の沿革を中心に、本社企画広報室の横山瑞史さんにお話を伺いました。「日本赤十字社史稿」(今も10年ごとに発行)を見せていただき、現在地にいたるまでをできるだけ詳しくみてみますと…

明治10年(1877)	近衛常民らの博愛社(のちの日本赤十字社)創業
明治10年6月15日～	麹町区富士見町 櫻井忠興邸
明治11年1月12日～	芝公園地 高松警察寮
明治11年7月28日～	深川亀住町 松平榮承邸
明治12年9月1日～	麻布市兵衛町 宮内省御用邸
明治14年10月2日～	深川亀住町
明治15年4月29日～	芝公園地 海軍省第八号官舎
明治18年3月3日～	麹町区三番町25番地
明治19年4月22日～	同 下六番町 武者小路実世邸
明治19年10月1日～	同 飯田町4丁目31番地
明治27年5月8日～	同 飯田町6丁目1番地
明治35年10月	隣接地100坪余を買収
明治39年11月26日	時勢の進歩と社務の膨張が改築を迫っていたところ、明治45年に開設される日本大博覧会に来日する同盟各社の接遇をきっかけとして、適地選定と本社事務所建設を議決した。
明治40年11月19日	芝区芝公園第五号地一番地官有地(元血清薬院跡)3,137坪余を適地とし、東京府知事に払い下げを申請する。12月12日 同払い下げ許可 代金十三萬圓
明治41年9月14日	建築設計・経費予算を議決 工事設計監督は菱本親寅
明治42年3月18日	地鎮祭 周辺隣接地との交換、寄付、整理を行う
大正元年(1912)9月	本館及び付属建築物すべて落成する 建築費総額(内部設備費共)45萬6,305圓
大正元年10月24日	飯田町6丁目1番地を引き払い此処に移転する。敷地は3,135坪余。敷地外延長230間(北53間×東55間×南54間×西66間)・本館レンガ造二階建314坪・倉庫60坪・材料庫161坪・文庫23坪・平屋総計316坪

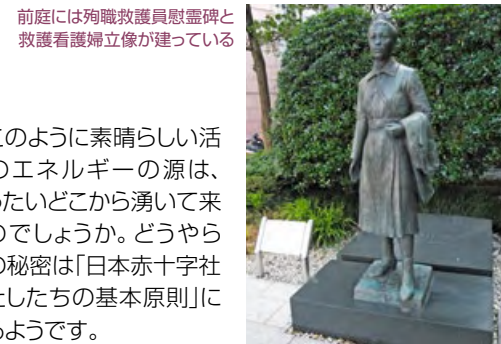
昭和50年(1975)4月25日 旧館取り壊し終了
昭和52年3月31日 創立100周年を記念して、新社屋落成(現在の建物)

このようにして現在の活動にいたるのですが、「赤十字情報プラザ」でいただいた活動概要を要約すると…

- 名譽總裁 皇后陛下
社 長 近衛 忠輝(常勤)
社員(個人1,065万人／法人15万人)
青少年赤十字 約12,000校 300万人
赤十字ボランティア 約3,000団体 200万人
- 職員 58,942人
- 年度予算(平成22年度) 1兆893億円
- 救急法基礎、救急法、水上安全法、雪上安全法、幼児安全法など講習会受講者数 648,032人
- 看護 大学(大学院併設)5/6
看護専門学校 17
- 災害救護 出動 568件
1 救護班(495班5,336人)
2 無線局(3,355局)
3 車両(598台)
4 飛行隊(特殊奉仕団)(100機)
- 病院(92)、病床(37,833床)、入院(日平均3.0万人)、外来(日平均7.3万人)
- 血液センター(64)、出張所(146)、採血車(293台)、運搬車(626台)、献血者数(530万人)、供給本数(1,863万本)



現在の日本赤十字社本社



このように素晴らしい活動のエネルギーの源は、いったいどこから湧いて来るのでしょうか。どうやらその秘密は「日本赤十字社わたしたちの基本原則」にあるようです。

日本赤十字社 わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道** 人間いのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平** いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立** すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立** 国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自立性を保ちます。
- 奉仕** 利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一** 国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性** 世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

(文・写真 ■柴崎 賢一／柴崎 郁子)

info **日本赤十字社 本社**
芝大門1-1-3
<http://www.jrc.or.jp/>
●赤十字情報プラザ TEL 03-3437-7580
※「赤十字情報プラザ」は、赤十字の歴史と活動を紹介するオープンスペースです。同本社1階にあります。
●開館時間 月～金 9時30分～17時
●休館日 土日祝、年末年始、同社創立記念日(5月1日)

芝の食文化

文明開化でハイカラを味わった麦の酒

ビールは麦芽、ホップ、水、酵母で造った醸造酒で、旨みと香り、苦味、爽快感が泡とともに心地よく喉を通っていく…。

幕末から明治にかけて、日本には欧米からさまざまな文化が目白押しで上陸しました。その1つがビールです。

徳川吉宗の治世、幕府の役人がオランダ人からビールを勧められたそうです。たぶんこの人が日本で最初にビールを飲んだ人なのでしょう。『何のあぢはひも無御座候、名はヒールと申候…』と『和蘭医事問答』明和7年(1770)に記述されています。

明治2年(1869)にアメリカ人によって、初めてビール醸造所が横浜山手に創設されています。明治9年(1876)には、ドイツで醸造技術を学んできた中川清兵衛を迎え、北海道に官営ビール会社を創業して、開拓使ビールが発売されました。その後、日本人によるビール醸造所がいくつも設立されました。何と新橋にも明治10年(1877)に東京芝校田本郷町(現在の新橋1丁目)に桜田ビール会社がありました。

110年間受け継がれてきた注ぎ方の技術

昭和32年(1957)開業のライオン新橋店は、店舗の変化の激しい地域で、今や老舗といえる存在です。1階のビアホールはクラシックな雰囲気と香り、昔からの常連客の憩いの場となっています。ビールは「コクとキレと喉ごしが命」といわれますが、それを堪能するには「ガスが抜けないように泡を残して飲み、グラスの下に泡が残るようにします」と、徳長邦明マネージャーは旨いビールを飲む秘訣をアドバイスしてくれました。さらに注ぎ方も重要で、こちらにはカウンターマンと呼ばれる、注ぎの専門家がいます。明治32年(1899)東京市京橋区(現在の銀座)に日本で初めてのビアホールとしてライオン1号店が開業してから110余年間受け継がれてきた技術で、今も変わらない味を守っています。ビールを美味しく飲むには、料理との相性も大切といわれます。ソーセージやポテトを使った料理、チキンの唐揚げなどが相性のいいメニューとして、人気があるようです。

昔からビール酵母は医薬品として使われ、強壮薬や婦人病治療、血糖値降下、便秘予防、ガン予防などに効果があるといわれている優れた機能性食品でもあります。古代バビロニア(B.C.3000年)で最初にビールが造られたといわれ、以来人々の生活と関わりながら、今や世界中で造られ、愛飲されています。日本ではほんの140余年のビール文化ですが、技術や科学、品質にめざましい発展を成し、世界的にもその実力が認められています。これからますますの研究開発が進められ、もっと旨いビールに出会えるでしょう。楽しみます。

(文 ■千葉 みな子／写真 ■張簡 光輝)

参考文献：渡淳二 監修・サッポロビール価値創造フロンティア研究所 編「ビールの科学」(講談社)

info **ライオン 新橋店**
新橋1-15-5 光和ビルB1・1～3F
TEL 03-3591-5511



新橋駅で明治・大正・昭和の軌跡をさがす!

私たちが日頃利用しているJR新橋駅。1日の乗降客は約50万人とも云われているが、その歴史は明治時代にさかのぼる。東日本旅客鉄道株式会社野澤 浩一第54代新橋駅駅長に新橋駅の明治・大正・昭和の軌跡をお尋ねした。

写真1 現在の新橋駅は明治42年(1909)12月に赤煉瓦高架鉄道駅「烏森停車場」として誕生し、山手線電車が田町駅～烏森停車場間で開通した。その後大正3年(1914)12月に駅名を烏森停車場から新橋駅に変更した。野澤駅長によれば、この新橋駅舎は大正3年3月竣工(写真①)、線路より東側にルネッサンス様式鉄筋赤煉瓦2階建、建坪557坪、中央塔高70尺、煉瓦141万個、杭木2,260本を使用、職工人数はのべ約7万3千人であり、1階に広間、待合室、婦人待合室、出札所等があり、2階に食堂等があった(註1)。設計は鉄道院で、2階には鉄道専用レストラン「東洋軒」があり、芥川龍之介も通ったようである(註2)。

大正12年(1923)9月の関東大震災では、高架アーチは無事であったが、新橋駅舎が火災により損壊してしまい(写真②)、大正15年(1926)3月に焼失を免れた建物を生かし改修駅舎が竣工した(写真③)。その後総武線地下駅を開業するにあたり、その駅舎は解体され、現在の駅舎は昭和51年(1976)に竣工している(註3)。

写真2 現新橋駅東側の汐留口に鉄道開通85年を記念して建てられた鉄道唱歌の碑がある。「新橋停車場」にまつわる鉄道唱歌が、明治22年(1889)に東海道本線が開通した後の明治33年(1900)に発表された。作詞者は大和田 建樹(1857-1910)で、作曲は多 梅雅(1869-1920)等で334番まである長編である。その碑には安倍 能成(1883-1966)の筆になる歌詞が添え

られている。それと並んで、蒸気機関車D51の動輪がある。D51機関車は昭和11年(1936)から1,115両作られ、このD51は昭和50年(1975)まで走っていた。「D」は動輪を4個付けた機関車である。札幌機関区から運ばれた。

写真3 新橋駅で見られる一番の明治の特徴は、何といっても赤煉瓦高架アーチである。その基礎杭には、地盤が泥土層のために数多くの長い天然松が使われたという。高架アーチの赤煉瓦は日本製であるが、イギリス式で積まれた。このアーチの橋脚の位置やスパンは、地下鉄線により、また工期によっても異なり、新橋駅のスパンの長さが8m、第一ホテル前のアーチのスパンが11m余と違っている。新橋のアーチ数は旧町名で日陰町、烏森町、二葉町で合わせて32アーチある(註4)。

写真4 外堀通りとの交差に鉄橋が架けられている。そのガードを支えている鉄支柱の上部(又は下部)に、重量を支える支柱とその台座の接点に「球体支承」とか「ピボット支承」といわれる球体を設置し、柱の揺れに遊びを持たしている部位がある。ドイツ人技術者フランツ・バルツァーが設定したものである(註5)。

写真5 1階階段部分を支えていた明治時代からの鉄柱が、烏森口改札から駅構内に入ると正面にプレートと共に展示してある。平成14年(2002)に3、4番線ホームエスカレーターへの設置に伴う階段解体工事のお

【芝歴史探訪】

りに、93年間ホーム階段を支えてきた鉄柱が出てきた。その柱には「明治41年1月 株式会社東京堅鉄製作所製造」の刻印が打ってある。

写真6 現駅長室に大正3年からの駅長の方々の名札が飾ってあった。伝統を汚さぬように毎日歴代の駅長の重責に思いをはせ、気を引き締めておられる緊張感が感じられた。



写真7 新橋駅日比谷口といえばSL広場の蒸気機関車であろう。C11-292型蒸気機関車が展示されており、1日3回「ポッポー」と汽笛が鳴る。「C」は動輪3個を意味している。昭和20年(1945)製造、重さ66.05トン、昭和47年(1972)に姫路機関区より運ばれた。

現在、新橋駅ではバリアフリー設備の整備、耐震対策工事、南北コンコースの一体化による混雑緩和を目的とした大規模な改良工事が進められており、日々の安全運行を含め、野澤浩一第54代新橋駅駅長を始め駅社員、工事関係者等により安全第一をモットーに業務が遂行されている。今、再び新しい歴史を刻もうとしている。

(文中敬称省略)

- 註1 新橋駅烏森駅開業時「社」の由来 新橋駅
野澤 浩一提供 烏森停車場資料
中西 隆紀著 幻の東京赤煉瓦駅 p43 平凡社新書
註2 中西 隆紀著 前掲書 p132、149
註3 野澤 浩一提供 新橋駅の沿革資料
註4 中西 隆紀著 前掲書 p33-50
註5 中西 隆紀著 前掲書 p45、46

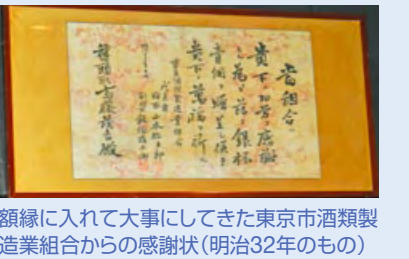
取材協力：東日本旅客鉄道株式会社
新橋駅駅長 野澤 浩一
写真提供：東日本旅客鉄道株式会社 写真1①、②、③

(文 ■森 明／写真 ■張簡 光輝)

芝の話題 芝に酒蔵が誕生、新たな歴史にいどむ

芝4丁目の扇形の土地の一角に港区唯一の酒蔵が誕生しました。株式会社若松屋の「東京港醸造」です。今から約100年前、明治43年(1910)に一度は途絶えたこの酒蔵の再興を担うのは、創業から7代目となる齊藤俊一さん、謙希知さん親子です。父俊一さんは港区商店街連合会の副会長や田町のショッピングモール、ピアタ会の会長を務めている生粋の江戸っ子で、地域の特徴をいかした港区独自の特産品を模索していました。自らのルーツである酒蔵の歴史と、酒造りを通しての町おこしや地域振興についてお話を伺いました。

若松屋は江戸時代の文化9年(1812)に創業し、主ににごり酒を製造していました。1850年頃より薩摩屋敷(現日本電気(株)本社ビル)に隣接することから、薩摩焼酎(芋焼酎)やどぶろく、後に清酒も販売するようになりました。



当時二十三間(約200坪)あった若松屋の敷地には酒蔵、母屋、庭を隔てた。1850年頃より薩摩屋敷(現日本電気(株)本社ビル)に隣接することから、薩摩焼酎(芋焼酎)やどぶろく、後に清酒も販売するようになりました。

行われたのかもしれませんが。

明治に入ってから4代目茂吉さんが東京市酒類製造業組合設立に大きく貢献し、また市議会議員に立候補するなど、日清・日露戦争前の好景気の中、活躍の場を広げます。時代の流れとともに一度は店をたたみ、しばし再興まで時を待ちます。見せていただいた江戸時代からの詳細を記録した若松屋の年表には、芝の歴史に足跡を残してきたこと、そして時代の勢いや空気で伝わってきたような歴史の息吹が感じられました。

これらを受け継いだ7代目俊一さんは近年商店街の縮小に歯止めをかけ、地域の活性化に一石を投じる必要性を感じていました。「芝のお土産と言えば“これ”」と言えるような観光客にも地元の人にも愛される商品を世に送り出したい、そんな思いのもと醸造所再興はスタートしました。

「東京港醸造」と同じような小規模スペースでの醸造は日本ではほとんど行われておらず、以前台場のアクアシティお台場にあった醸造所の元醸造責任者であり、全国品評会で金賞受賞の実績がある寺澤杜氏をはじめ、杜氏の助手を10年務めたスタッフの内山さんら多くの人の

の協力のもと試行錯誤が繰り返されました。息子謙希知さんは長野の酒蔵で2期にわたり修行を積んだということです。新生若松屋として6年の歳月が過ぎ、今年の7月8日醸造許可が正式に下り、本格的に製造が開始されました。銘柄は土地にちなみ「江戸開城の」にごり酒、大河ドラマ「お江」をイメージしたピンクのリキュール酒の2種類です。今年9月中旬販売予定です。

(文 ■作田 宗子／写真 ■町田 明夫)

info **若松屋 東京港醸造**
芝4-7-10
TEL 03-3451-2626

「今後は銘柄や生産量を増やしていきたい」と齊藤さん親子。左は内山さん



終戦の日 特集

終戦を迎えるころ、東京は連日空襲を受け、大半が焼失しました。まさに焼け野原からの復興です。戦後66年目を迎える終戦の日に「平和の尊さ」をもう一度考えたいと思います。

あの頃、戦争があった

私は生きて帰れるかわからない…戦地へ赴く前、疎開学童を慰問した思い出

戦時中、西久保八幡町で少年団の隊長を務め、軍隊に召集される前に疎開先の子どもたちを慰問したという経験を持つ曲谷さんにお話を伺いました。

西久保八幡町で少年団の団長を務める

私は西久保八幡町（現虎ノ門5丁目）で、生まれ育ちました。戦時中、この辺りには、歌、書道、俳句を楽しむ子ども会があり、中・高校生がその面倒を見ていました。その子ども会が次第に少年団となり、そこで軍隊教育もするようになりました。私はその少年団の隊長をしていました。戦争が苛烈を極め、東京に空襲が起きようになると、子どもを守るため、学童疎開が始まりました。近くの柄絵小学校や少年団の子どもたちの多くは栃木県の川治温泉に疎開しました。

戦地に赴く前のわずかな期間に慰問活動

昭和19年（1944）12月、軍隊に行くことが決まっていた私は、生きて帰れるかもわからないという思いから、戦地に行くまでのわずかの間に、疎開先に慰問に行くことを決めました。当時慶應義塾大学の学生だった私は、神谷町や西久保八幡町に住んでいた高校生や大学の友達を誘い、6人で慰問団を結成しました。疎開学童を引率していた先生は私の恩師でした。先生に慰問に行きたいとはがきを出したところ、たいへん歓迎してくれました。

慰問に行く前に、現地で子どもたちに見せる慰問劇を2つ用意し、6人で1週間くらい練習しました。道具や衣装はすべて手作りでした。リュックサックに舞台道具を詰め、アコーディオン等の楽器を背負い、入りきらないものは手に提げて…お米や子どもたちにあげるお菓子も持参して出発しました。

子どもたちのために即興で歌づくりも

今のように交通の便はよくなかったので、東武線で鬼怒川温泉へ行き、鬼怒川温泉からは重い荷物を持って、歩いて川治温泉に向かいました。体力には自信のある仲間たちと山道を歩くこと1時間ちょっと。到着すると、宿舎となっていた川治温泉ホテルで、みんなが私たち慰問団を喜んで迎えてくれました。

川治では、子どもたちと一緒に体操をしたり、岩登りをしたりしました。夕方、用意してきた慰問劇を見せると、子どもたちや先生はもちろんのこと、ホテルの皆さんも、楽しんでくれて、笑い声が絶えなかったですね。当時娯楽が少なかったぶん、余計に楽しかったのでしょう。



2泊3日の滞在中に、即興で「とまれ疎開学童の歌」をつくりました。作詞は私で、作曲は音楽の得意な高橋君でした。みんなで大きな声で歌いました。今でも全部歌えますよ。たった2泊3日でしたが、帰るときはお互いに別れを惜しみました。もう慰問に行くことはできないとわかっていましたから。生きてまた会えるかもわかりませんでしたから。慰問から戻り年が明けると、私は戦地へと向かいました。私自身は国を守るのはわれわれ若者しかいない、しょうがないと思っていましたが、小さい頃から大事に育てた我が子を戦場に送り出すという親の気持ちはどれほどだったのでしょうか。今の若者たちには想像もできないでしょう。

今の若者たちにも知ってほしい日本の歴史

昭和20年（1945）9月10日、私はトタンを積んだ車に乗って虎ノ門に帰ってきました。虎ノ門3丁目あたりから新橋を見たら、愛宕町、西新橋、新橋…見渡す限り何にもありませんでした。全部焼けていました。周りに何もないので、高架だった山手線だけがはっきり見えました。大学に復学し、2年半で卒業しましたが、卒業する頃には経済活動はほとんど元に戻っていません。焼け野原もほとんどなくなっていません。たった2年半で。本当に活力がありました。

今の若者たちにも、こういった日本の歴史を知っていてほしいですね。

わが国の終戦の日
は玉音放送のあった
昭和20年（1945）8月15日です。
戦死者は約310万人（歴代政府答弁）。
私たちはその不幸な時代を乗り越えて、
今日の日本を築き上げました。



曲谷さんは「とまれ疎開学童の歌」1番2番をすべて歌ってくださいました

背中に火のついた友達に水をかけたことも…戦争はもういない。みんな仲良くが一番

上を首都高速の高架が通る古川に架かる金杉橋。もともと漁師町だったこの地で生まれ育ち、12歳から漁に出ていたという鈴木さんに、この辺りの戦争当時の状況を伺いました。

空襲から船を守るために父親と一緒に

以前ここは金杉川口町（現芝1丁目）といわれ、漁師がたくさんいて、古川には漁船が留まっていた。本芝（現芝4丁目）には雑魚場があって、戦時中も漁に出ていました。

空襲があったとき、私は小学6年でした。焼夷弾が自分の通っている竹芝小学校の辺りに落とされたかと思うと、風が強かったので火が巻き上がり、波のようにみるみる押し寄せてきました。火の勢いは衰えず、漁船の留まっている古川まで迫ってきたので、慌てて漁師をしていた父親と一緒に船のところまで行きました。船は漁師にとって大事なものの、燃えては困ると、火を避けるために船を出してはみたものの、押し寄せる風と火でなかなか思うように進みませんでした。なんとか燃えずにすみましたが、火の勢いはものすごかったですね。

空襲で燃える家々…本当に戦争はひどいもの

この辺りの人の逃げ場所は、線路でした。土手のように少し高くなっていて、建物もなかったからです。私は、燃えている近所の家の消火をするために、バケツ2～3杯も入る大きな容器に水をいっぱいくんで、それを抱えて運びましたね。今考えると、ずいぶん重かっただろうなあと思います。でも、そのときは必死だったので、そんなことを考えなかったですよ。そのとき、逃げて逃げて、必死に助けを求めた兄は、毎日川でたくさんのお金の遺体の引き上げ作業を行っていたそうです。特に下町のほうの川はひどかったみたいです。

運もあるのでしょうね、小さなお川に逃げて助かった人もいました。あとで聞いた話ですが、川に逃げて亡くなった人も多く、水上消防署の仕事をしてた兄は、毎日川でたくさんのお金の遺体の引き上げ作業を行っていたそうです。特に下町のほうの川はひどかったみたいです。

運もあるのでしょうね、小さなお川に逃げて助かった人もいました。あとで聞いた話ですが、川に逃げて亡くなった人も多く、水上消防署の仕事をしてた兄は、毎日川でたくさんのお金の遺体の引き上げ作業を行っていたそうです。特に下町のほうの川はひどかったみたいです。

運もあるのでしょうね、小さなお川に逃げて助かった人もいました。あとで聞いた話ですが、川に逃げて亡くなった人も多く、水上消防署の仕事をしてた兄は、毎日川でたくさんのお金の遺体の引き上げ作業を行っていたそうです。特に下町のほうの川はひどかったみたいです。

平和への願い

第57回 こども平和まつり

都立芝公園にある『こども平和塔』は、昭和29年（1954）、太平洋戦争で犠牲になられた方々を慰め、世界の恒久平和を願う全国の小・中学校の児童・生徒の手によつ

てつくられました。この尊い精神をしのび、毎年7月末に「こども平和まつり」が開催されます。

今年は7月29日（金）に御成門小学校で、第57回「こども平和まつり」が開催されました。まつりの開催に先立ち、『こども平和塔』の清掃活動が、御成門小学校・御成門中学校の皆さんを中心に行われました。「こども平和まつり」は2部構成で、第1部の「平和まつり」では三田中学校生徒会が



すずき はるお
鈴木 春男 さん
昭和7年（1932）3月13日生まれ 79歳

戦後は困っている人をみんなで助けた

空襲後の4月、私は中学に入学できず、学徒動員で、軍需工場では武器を生産していました。幸いにも自宅は燃えずにすんだので、両親は芝新堀町（現芝2丁目）から家が焼けて逃げてきた知り合いを世話していました。芝新堀町のほうは、空襲で被害が大きかったので、住む家が無くなってしまった人も多かったと聞きます。あの頃は、困っている人がいたら、みんなで助けたものです。

戦後になっても、家が防空壕に住んでいた人もいました。焼け野原で、辺り一面何もなかったもので、持ち主でもない人が勝手に他人の土地に小屋を建てて住んで、もめていることもありました。みんな生きていくのに、精一杯でした。

この辺は、駐留軍の車両の通り道にもなりましたが、たまに車からチョコレートを落としてくれて…子どもたちは喜んでそれを食べていました。食糧不足の時代でしたが、漁師の家だったので、私たちは食べるものにはそれほど困りませんでした。よその家に比べたら、苦労は少なかったかもしれない。親には感謝しています。たまにご飯を外に置いておくと、誰かに持っていかれることがありました。困っている人が持っていくたのでしょうか。でも、それをとがめることもなかったですよ。

空襲は、今振り返ってもつらいことばかりを思い出させます。もう戦争はいらないね。「みんな仲良く」（これは鈴木さんがよく家族に言うフレーズのように）がいいです。



司会を務め、みんなで「こども平和塔の歌」を歌い、「こども平和宣言」を行いました。第2部の「平和コンサート」では御成門中学校生徒会が司会を務め、児童・生徒による和太鼓やシンフォニックプラス演奏、コーラスのほか、民族舞踊を通して外国児童との交歓も行われました。次世代を担う子どもたちが平和の大切さを感じるよい機会となりました。



info こども平和塔 芝公園3-2 都立芝公園内



焼け野原からの復興 会社を支えたステンレス厨房

明治40年（1907）新橋4丁目で板金加工所として創業し、戦後その技術力でステンレス厨房器具の製作を手がけ、現在に至るまで数多くのホテル、レストラン、学校、病院などの厨房設計・施工を行ってきた「株式会社 村幸」の相談役 村田さんにお話を伺いました。

戦時中は新橋に残る

私は新橋で生まれ、桜田小学校に通い、この地で育ちました。戦時中も疎開せずに、新橋に残りましたが、家族の中には、疎開した人もいました。私の家族・親族は東京の人ばかりで、田舎がなかったため、家にいたお手伝いさんの郷里だった長野県松本市にある浅間温泉に疎開させてもらっていたのです。会社は、戦時中は軍部の指定工場となり、軍需品を生産していましたが、一方で、当社の技術を生かして、船舶や兵舎の厨房設備器具の製造も始めました。

昭和20年（1945）3月10日、鉄丸をかぶって自宅の物干し台に上ると、本所・深川方面が真っ赤に燃えているのが見えました。こちらに1機のB29が飛んできたと思ったら、この一角にも焼夷弾が落とされ、家はあっという間に焼けてしまいました。火の手のないところへ必死で逃げました。私の自宅は新橋の中でも、空襲を受けた最初の地域でしたので、まだ家が残っている同級生たちが、ありがたいことに片づけの手伝いに来てくれました。しかし、その後の空襲で、その同級生たちの家もみんな焼けてしまいました。この辺りは焼け野原になりました。

戦後、米軍の指定工場に

戦後は食糧難で、食料を譲ってもらえる田舎がない家は苦労したものです。苦しい時代でしたが、みんな復興をめざして一生懸命でした。戦後から約2年たった昭和22年（1947）には当社も工場を再建することができ、厨房設備機器の製造に力を注ぎました。この近くに米兵の集まるビアホールがあったこと、社員の中に英語の話せる人がいたことなどの幸運にも恵まれ、当社の技術や製品が米軍の目にとまることになりました。昭和25年（1950）、当社の製品が駐留軍に認められ、大船にあった米軍の購買局の指定工場となりました。そこから厨房設備機器の注文をたくさんいただき、大忙しの毎日でした。その後、米軍からは感謝状もいただきました。一般家庭の厨房器具も製造していましたが、もと

り、芝家具屋さんがたくさんありましたので、その家具（流し台やテーブルなど）にステンレスをはり、ステンレス家具としても喜ばれていました。当時、水を入れて冷やす木製の冷蔵庫がありましたが、その内側にステンレスをはって販売を始めたところ、ニーズに合ったのでしょうか、飛ぶように売れたものでした。



米軍の注文を受けて生産した三槽シンク120台を新橋の戦災跡地に並べました（昭和25年）

厨房設計・施工に尽力

その後も厨房設備にこだわって、研究・開発を重ねていきました。今ではホテルやレストランでよく見られるステンレス厨房設備ですが、その先駆けとして昭和30年代、多くの有名なホテルやレストランの注文を受け、施工を行ってきました。昭和43年（1968）には皇居新宮殿造営の際、配膳室の工事をさせていただきました。今でもよい思い出です。平成15年（2003）黄綬褒章をいただいた際、約30年ぶりにその配膳室を見せていただき、懐かしさで感慨深かったです。



施工したホテルのステンレス厨房設備（昭和38年）

戦後は、何もなくなくなってしまった焼け野原の中から、みんな復興に向けて助け合いながらがんばっていました。活気もあつた気がします。私は、生まれ育った新橋で、戦後たくさんのお仕事をいただくことができ、今も同じ場所で働き続けられていることをうれしく思っています。

info 株式会社 村幸 新橋4-6-8 TEL 03-5777-0011

芝活人

さまざまな分野で活躍されている
芝地区の皆さんをご紹介します

今だからこそ、 心と心のつながりを大切に

学生時代から手作り料理をふるまうのが大好きだった直江重さんが、妻道子さんと一緒に虎ノ門3丁目に「カフェ・ド・ノエル」を開いて、今年で11年目。心のつながりを大切にしてきたお二人は、今回の東日本震災においても、募金活動や物資の支援などたくさんの活動をされています。そんな直江さんご夫妻にお話を伺いました。

学生時代の友人だったお二人。重さんは広告代理店に勤務し、道子さんはまだスタイリストという呼び名がない時代に、第一線でCM制作などに携わり、それぞれ多忙な日々を過ごしていました。卒業後十数年たった12月24日、偶然お二人は再会を果たし、その後結婚されました。「カフェ・ド・ノエル」という店名は、その再会した日にちなんで付けられたそうです。結婚後は、木曾に畑付きの家を借り、週末は仲間達を招いて時間を過ごす生活を20年にわたって続けました。

お二人は、木曾の山での生活は大自然との心の対話の時間だったといいます。大自然との共生、心と心のつながりと対話の大切さを学んだそうです。「カフェ・ド・ノエル」でも、お二人の人柄と木曾での



直江さんご夫妻。手前にあるのが、重さんが作った巣箱。使う貝殻1つ1つの大きさまでこだわった精巧な細工は一見の価値ありです

生活で得られたものをたくさん感じることができます。

2階にあるお店に向かう階段には、手作りの木の看板と鳥の巣箱が目を引きまします。お店にもたくさんの素敵な木の巣箱が飾られていますが、それら巣箱は木曾での生活の中で、重さんが細やかな細工を施しながら作り続けたもので、実際に多くの小鳥たちが巣立っていったそうです。

道子さんは、まだ女性の活躍の場が少なかった時

代に、CM制作現場を取り仕切るほどのたいへんな力強さを持つ女性である一方、心で考えて対話することを常に心掛けてこられた繊細な感性の持ち主でもあります。そんな道子さんは、ご家族の介護や今回の震災に対する支援などに心を割かれる中、失われかけた心と心のつながりと、対話することによる皮膚感覚の大切さをますます実感したそうです。そして、大自然の脅威に対しては心で見つめて感じて寄り添うことを、木曾の山の生活から学んだそうです。

対話を大事にする温かなお二人の人柄と縁から、お店のイベントも国籍やジャンルを問わない、みんなが楽しめるものになっています。道子さんのウクレレ演奏をはじめ、絵本作りやライブなどの心温まるイベントによって、さらに新たな輪が広がる場所、それがお二人のお店です。

未曾有の天変地異がもたらしたものは、多くの悲しみだけではなく、忘れていた人と人とのつながりのあり方や、それをつなぐのは心であるということを一度思い出すチャンスでもあるのでは。被災者をいたわり、心のつながりを大切に活動してきたお二人が作る、心と体が喜びボリュームたっぷりの優しいメニューは、ふわふわの小鳥の巣の中にいるような温かな気分させてくれる、そんな心遣いを感じました。

(文・写真 ■ 天津 由理香)

info カフェ・ド・ノエル
虎ノ門3-13-13 2F
TEL 03-3437-9235

ココロと カラダに おもてなし！ 夏レシピ

食の人気素材、ナチュラルチーズ。今では、家庭の食卓でも、パスタやサラダなどで、よく頂きます。今回は、新鮮なチーズを使用したメニューを、夏向けにアレンジして、気分も身体もリフレッシュ！美味しい夏レシピを、2つご紹介！チーズ専門店 フェルミエ愛宕店 店長で、チーズのプロフェッショナルの国際コンクールで世界第2位を受賞した村瀬 美幸さんに、ご提供していただきました。

(文・写真 ■ 桑原 庸嘉子)

水牛モッツアレラのバルサミコ酢和え

【材 料】(4人分)

水牛モッツアレラチーズ※ 16個(サクランボ大)
クルミ 4〜5粒
バルサミコ酢 大さじ3
砂糖 ひとつまみ
塩・黒こしょう 適宜
エクストラバージン・オリーブオイル 大さじ2

※オリジナルレシピでは、モッツアレラ・ディ・ブーフアラ・チリエーネを使用しています。



(写真提供:フェルミエ)

【作り方】

- 1 モッツアレラチーズは軽く水気を切っておく。
- 2 クルミはトースターで3分ほど焼き、砕いておく。
- 3 ボウルにバルサミコ酢、砂糖、塩・黒こしょうを入れて混ぜ合わせる。
- 4 ③にモッツアレラチーズ、クルミを加え、軽く混ぜ合わせる。
- 5 お皿に盛り、上からオリーブオイルをまわしかけて出来上がり。

とてもシンプルながらも、バルサミコ酢の甘酸っぱさがモッツアレラチーズのミルクinessを引き立てます。使用するバルサミコ酢の濃度が濃い時は量を控えめに。野菜を加えてサラダにもアレンジできます。夏の暑い日にもおすすめの一品です。水牛乳製モッツアレラチーズの代わりに牛乳製モッツアレラチーズでも美味しく召し上がれます。

バスク風味の カマンベール

オリジナルレシピでは、容器としてクローシェ・ア・カマンベール(ふた付きの陶器)を使用しています。

【材 料】(4人分)

カマンベールチーズ 1/2個
じゃがいも 中2個
★赤パプリカバスク風 30g
塩・こしょう 少々

【作り方】

- 1 水平にカットしたカマンベールチーズ1/2個を陶器にセットする。
- 2 皮をむきゆでたじゃがいもを一口大に切り、塩・こしょうをして①にのせ、赤パプリカバスク風のせる。
- 3 ふたをして、電子レンジで1分半〜2分加熱する。全体がとろ〜りしたら出来上がり。

じゃがいもととろ〜り溶けたカマンベールチーズの相性は絶妙です。

★「赤パプリカバスク風」の材料と作り方★

【材 料】(4人分)

赤パプリカ 1個
ベーコン 2枚
エシャロット 2かけ
にんにく 1/2かけ
ビメント・デスベレット※の粉 少々
オリーブオイル 適量
ローリエ 1枚
塩・こしょう 少々

※ビメント・デスベレット…バスク名産の赤唐辛子

【作り方】

- 1 赤パプリカは半分に切り、種をとって3cmほどの棒状にカットする。
- 2 ベーコンは粗みじん、エシャロットとにんにくはみじん切りにしておく。
- 3 鍋にオリーブオイルを入れ、にんにく、エシャロット、ベーコンを炒め、赤パプリカを入れ、塩・こしょう、ビメント・デスベレットの粉、ローリエを入れ約15分炒め煮し、冷ましておく。



愛宕山の自然に包まれ、店内は自然光を探り入れ木目調をあしらった造りに温もりが広がります。各国、さまざまな種類のチーズを取りそろえられ、食べる楽しみに加え、食の異国文化にも触れることもできます。



店内の一面では、ガラス越しに大きなチーズたちが並び熟成室が見られます。チーズは、男性スタッフが丁寧に磨きあげます。

info フェルミエ愛宕店
愛宕 1-5-3 愛宕ASビル1F
TEL 03-5576-7720

芝次郎の 園芸講座



リンドウの育て方

今回は、これからの季節にきれいな紫の花を咲かせるリンドウの育て方です。きれいに咲いているリンドウを見ていると秋の訪れを感じて心が癒されます。みなさんも栽培のポイントをしっかりおさえて、きれいな花が咲くように挑戦してみましょう！

リンドウは自生種ですが、近年は園芸用に品種改良され用途に応じた苗が販売されているので、目的に合った品種を選びましょう。品種改良された園芸種は丈夫で育てやすいですが、細やかな気配りを忘れないようにしましょう。

用意するもの

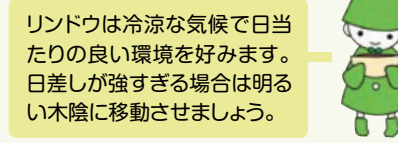
- 苗 ……葉に傷みがなく、茎が太いものを選ぶ。
 - 鉢 ……通気性と水はけが良いものを選ぶ。
 - 用土 ……野草用の培養土が良い。
- 用土を鉢に入れ、苗を植え替えます。たっぷり水をあげましょう。



リンドウは冷涼な気候で日当たりの良い環境を好みます。日差しが強すぎる場合は明るい木陰に移動させましょう。

栽培のポイント

- 1 日当たり良く、風通しの良い場所で栽培する。日が当たらないことで花を咲かせず(葉焼けには十分注意する)。
- 2 乾燥しないように、1日1回たっぷり水やりする。直接つぼみや花に水をかけると花が傷みやすくなります(根腐れには十分注意する)。
- 3 肥料が不足すると葉が変色するので、月2回程度適量を与える。
- 4 病気や害虫に注意して、害虫がついてしまったら取り除く。



しばのいえ につき

「芝の家」日記

暑い日が続きます。打ち水をしたたり、育てた野菜を食べたり…芝の家で暑い夏を一緒に楽しみませんか。

■ 4月 掲示板から生まれた出会い

芝の家には「お互いさま掲示板」という、地域の情報交換や住民同士の交流を目的とした掲示板があります。どなたでもご利用いただけるこの掲示板をきっかけに生まれた「パッチワーク班」をご紹介します。

掲示板上に貼られた「パッチワークを教えてください」という女性の呼び掛けに、長年パッチワークをされている女性とその友人が応えてくれました。

3人とも近隣にお住まいで、毎週火曜日に芝の家に集まり、熱心に糸と針で布をちくちく。4月に始まったこの「パッチワーク班」の活動は、今では芝の家火曜日の恒例になりました。

教える側と教えてもらう側が、先生と生徒というよりも、共通の「好きなもの」を通じて交流している仲間といった感じで、堅苦しくなく、とても楽しそ



うです。その風景に、居合わせた人たちも関心を寄せたり、噂をきいて見学に来る方もいます。

最初は1つのモチーフの練習から始め、現在では初の大作、テーブルクロスに挑戦中。1つ1つ違うモチーフをセンスよく配置して、色とりどりの生地をカットし、丁寧に縫い合わせていきます。今から完成が待ち遠しく感じます。

■ 5月 土曜日の昼下がりに

3人かけのソファに男の子が3人と若い男性が1人。このうち、男の子3人は自宅から持参した携帯型ゲーム機で遊んでいました。お互いのゲーム機画面をのぞき込みながら盛り上がりつつあります。この仲良さそうに見える3人、実は学年も通っている学校も違うのです。芝の家では、少し距離のあるところに住んでいる子が自転車遊びにきたり、遠くの学校に通っていて平日は来られない子がやってきたりするのは、土曜日の午後ならでのこと。この3人はここでさきさき出会ったばかりだといふのに、あつという間に意気投合してゲームを楽しんでいます。近所にお友だちができてよかったですね。

さて、同じソファに腰かけていた若い男性はというと？ 子どもたちのはしゃぐ声や飛び跳ねる振動をもっともせず熟睡していました。今週はよっ



ほどお仕事が忙しかつたのでしょうか。ゲームで遊んでいる子どもたちがいたり、昼寝をしている人がいたり。芝の家は誰の家でもありませんが、まるで誰かの家に遊びに来ているような、そんな感覚になるみんなの家です。

■ 6月 暑い日のおやつ

芝の家では、「コミュニティ菜園プロジェクト」という取り組みを進めています。畑にするような広い土地はありませんが、芝の家に種まきした花や野菜の鉢植えを、近隣の住宅や商店の軒下などに置かせていただいて、みんなできれいな花を大事に育てたり、野菜の世話などをしたりしています。

今年はミニトマトに挑戦。近所の人たちのおかげで、すくすく育て、赤く色づき始めたミニトマトを、子どもたちが収穫しました。氷水でキンキンに冷やして食べてみたら酸っぱいもあり、甘いもあり。暑さにほてった身体が喜ぶ美味しいおやつとなりました。



info 芝地区昭和の地域力
再発見事業拠点「芝の家」
芝3-26-10
TEL 03-3453-0474
●月・火・木 11時〜16時開室
●水・金・土 13時〜18時開室
●ウェブサイト <http://www.shibanoie.net/>

芝地区MAP

本誌に掲載した記事に出てくる施設などをとまとめました。ウォーキングマップとしてご活用ください。



- 1 大門 1P
- 2 芝大神宮 1P
- 3 紀伊国屋とうふ店 1P
- 4 日本赤十字社 本社 2P
- 5 ライオン 新橋店 2P
- 6 JR新橋駅 3P
- 7 若松屋 東京港醸造 3P

- 8 こども平和塔 5P
- 9 株式会社 村幸 5P
- 10 カフェ・ド・ノエル 6P
- 11 フェルミエ愛宕店 6P
- 12 芝地区昭和の地域力再発見事業拠点「芝の家」7P
- 13 戸板女子短期大学 7P
- 14 新橋児童館 8P
- 15 特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会 8P
- 16 芝消防署 8P
- 17 愛宕警察署 8P

新橋児童館の子どもたちが史跡ツアーに行ってきました！

6月29日、新橋児童館では、本誌19号4ページに掲載された『芝地区～お江ゆかりのスポットを歩こう～』の記事を参考に、今年度からの新たな取り組みである「史跡ツアー」を行いました。第1回目のコースは、増上寺、芝東照宮、御成門でした。

子どもたちはしおりを持って、ツアーに出発。しおりには史跡についてのクイズや豆知識が書かれていて、子どもたちが楽しんで学べる内容になっています。

増上寺では、徳川将軍家霊廟内の歴代将軍や妻などのお墓を見学しました。また、芝東照宮の樹齢350年を超えるイチヨウの巨木や、「御成門」の場所・名称の由来など、見慣れたまちの中での新たな発見に、子どもたちは目を輝かせていました。

(なお、本誌第19号は港区ポータルサイトのトップページ>総合支所のページ>芝地区総合支所>芝地区の地域情報誌のページでもPDFでご覧いただけます)



新橋児童館
新橋6-4-2
TEL 03-3433-4005



これから徳川将軍家霊廟内に入ります！
※11月30日まで毎日公開されています
(撮影協力：増上寺)

お知らせ

小山内美江子 国際ボランティア・カレッジ

国際協力について学びませんか？
第6期・受講生募集

「JHP・学校をつくる会」(代表 小山内美江子)では、国際協力団体としてカンボジアでの学校建設・教育支援、ボランティア派遣などの活動をし、その知識を活かして2006年から国際ボランティア・カレッジを開講しています。国際協力や多文化理解に役立つ講座、カンボジアでの現地研修など、学びと体験の場を提供しています。現在、第6期生を募集しています。

【日 程】2011年9月10日～2012年3月24日

【参加要件】18歳以上

【定 員】35名

【開催場所】読売理工学院ビル内教室

【主催団体】JHP・学校をつくる会

※費用や講義スケジュール等はホームページまたは事務局までお問い合わせください。

◎聴講生を随時募集しています。(1講義から受講可)

●問い合わせ先

特定非営利活動法人(認定NPO法人)JHP・学校をつくる会
小山内美江子 国際ボランティア・カレッジ事務局(担当：鳥居、田中)
〒108-0014 東京都港区芝5-26-16 読売理工学院ビル6F
TEL:03-6435-0812 / FAX:03-6435-0813
E-Mail: college@jhp.or.jp
URL: http://www.jhp.or.jp/college/index.html

東日本大震災 被災地支援レポート

福島県いわき市への支援

JR新橋駅前にあるニュー新橋ビルに、平成6年(1994)から今年の3月まで、福島県いわき市のアンテナショップがありました。いわき市とは、このアンテナショップのオープンを契機に、みなと区民まつりや新橋こいち祭への出店、交流事業などを通して関係を深めていたことから、平成20年(2008)、港区はニュー新橋ビル商店連合会(会長 長尾武次)とともにいわき市と協定を締結し、「商店街友好都市」の関係になりました。



震災後港区ではいわき市の要請を受けて、3月24日から4月28日まで、6月19日から9月30日(予定)までいわき市へ区の職員を派遣しています。職員は、1週間交替で被災家屋の罹災証明の発行と現地調査の補助などの業務を行い、被災地の支援にあたっています。

被災地の支援にあたっています。

ニュー新橋ビル商店連合会でも、これまで2回商店会で集まった義援金をいわき市に送りました。

●現地での活動報告より

支援物資の集積所となっていた平競輪場で、自衛隊やボランティアの人たちと物資の搬入・搬出や仕分けをしました。罹災証明は申請件数が多く、一つ一つ現地調査をして発行するまで、かなりの時間を要します。慣れない地名にも苦労しました。現地調査の際は、被災者の方々とのお話も大事にしました。微力ながらの応援でした。

第6回ふれ愛まつりだ、芝地区！

東日本大震災復興支援～つなげよう希望・ひろげよう絆～が開催されました

6月4日、区立芝公園で、「東日本大震災の被災地復興支援」地域のふれあい・環境・平和」をテーマに、「第6回ふれ愛まつりだ、芝地区!」を開催しまし



(写真：町田明夫)

た。当日は、例年より半月も早い梅雨入り後にもかかわらず天候に恵まれ、まつりの熱気が会場を包みました。

会場を訪れた人の数はおよそ4,700人。出店会場の「地域ふれ愛マーケット」では、地域の団体が趣向を凝らした模擬店を出店し、どのブースも大にぎわいでした。

環境にやさしい太陽光発電を備えたトラックステージでは、2部構成のコンサートが行われ、第1部「地域ふれ愛コンサート」では、地域の人々による歌や

踊り、バンド演奏などが披露されました。第2部「ジ・アース&ピースコンサート」では、平和への願いを込めて佐々木祐滋さんとサンブラザ中野くんによるコンサートでステージが盛り上がりました。

来場者の皆さんが書いてくれた被災者へのメッセージを被災地に届けたり、各ブースで義援金をお願いしたり、みんなで被災地の復興を願いました。

集まった義援金79,306円は、日本赤十字社を通じて被災地に届けられます。ありがとうございました。

都税についてのお知らせ

災害等により被害を受けた方には都税を減免する制度があります

風水害や地震、火災などで甚大な被害を受けた方には、一度課税された税金のうち、まだ納期限が到来していない税金を、被災の程度等によって軽減または免除する制度があります。



主税局イメージキャラクター
タックス・タクちゃん

《減免する場合》

床上浸水、崖崩れ、家屋損壊等の被害を受けた場合

《減免の対象となる都税》

固定資産税・都市計画税(23区内)、不動産取得税、個人事業税など

《減免を受けるための手続き》

減免を受けるためには、納期限までに、納税者ご本人からの申請が必要です。被災された方は、「罹災証明書」など、被災の事実を証明する書類を添えて、都税事務所で申請してください。

また、被災により、都税を一度に納めることができない場合には、納税を猶予する制度があります。なお、納税の猶予を受ける場合にも、申請が必要となります。詳しくは、都税事務所までお問い合わせください。

●問い合わせ先●
港都税事務所
TEL 03-5549-3800(代)

防災は 備えと意識と 助け合い

防災週間
8月30日(火)から
9月5日(月)

救急週間
9月4日(日)から
9月10日(土)



自分自身と大切な家族を守るため、
家具類の転倒・落下防止をしておきましょう!!

芝消防署
TEL 03-3431-0119 FAX 03-3433-1920

「みなとコール」は暮らしの疑問にお答えします!



区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。

年中無休／午前7時～午後11時

TEL 03-5472-3710
FAX 03-5777-8752

Eメール: info@minato.call-center.jp

英語での対応もいたします。

警視庁犯罪被害者ホットライン

被害者や家族の相談窓口です。

迷わずに勇気を出して
相談してください

TEL 03-3597-7830
FAX 03-3592-6840



匿名でもOK

秘密厳守

お気軽に

愛宕警察署

芝地区地域情報誌・編集委員を募集しています!



芝地区の話題を発掘し、取材していただく地域情報誌・編集委員(記者)を募集します

【対 象】芝地区管内に在住、在勤、在学で取材に携わりたい人

【内 容】地域の話題の収集、取材、写真撮影、原稿作成など(年間4回発行予定)。発行予定ごとに平日の昼夜間に2時間程度の取材と、平日夜間に1回程度編集会議への参加があります。

【申し込み】氏名、住所(在勤、在学の方は所在地)、連絡先、在住・在勤・在学の区別を明記の上、下記の芝地区総合支所協働推進課まで、FAXまたは郵送でお申し込みください。

【そ の 他】報酬等の支払いはありません。

★本誌の制作には以下の編集委員が参加しています。

天津由理香／伊藤泰子／金田明美／菊池弓可／清田和美／桑原庸嘉子／小知和千佳子／作田宗子／佐藤剛志／柴崎郁子／柴崎賢一／千葉みな子／張簡光輝／日尾佳世／町田明夫／森明

★今後の発行スケジュールは次の通りです。

H23.11.20発行(第21号)、H24.2.20発行(第22号)、H24.5.20発行(第23号)、H24.8.20発行(第24号)

芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1～3丁目、浜松町、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設にて配布しています。

港区芝地区総合支所協働推進課

所在地：〒105-8511 東京都港区芝公園1丁目5番25号(港区役所2階)
TEL：03-3578-3193 FAX：03-3578-3180
ホームページ：http://www.city.minato.tokyo.jp/sisyo/siba/